

キャリアデザインセンター長



6年前に大手コンピュータメーカーのコンサルタントから教員に転身。ネットワーク情報学部では情報システム開発論を担当する。キャリアデザインセンター発足当時から運営委員を務めるとともに、学部のインターンシップ科目や産官学連携活動を担当する。このように社会との接点も多い小林教授が考える「キャリアデザイン像」をうかがった。

情報学部教授 小林隆

この活動を通して達成感や自己を感じた学生は、さらに高き、考え、行動するための機会を提供するものです。人を基礎力」とは、論理的思考力、実行力、コミュニケーション力の3つで、これらは、高いモチベーションをもって大学生に人前になることの手ごたえを送れば、着実に身に活をつくものです。例えば、この活動を通して達成感や自己を感じた学生は、さらに高き、考え、行動するための機会を提供するものです。

「社会人基礎力」の早期習得を支援

早期習得を支援

「社会人基礎力」とは、論理的思考力、実行力、コミュニケーション力の3つで、これらは、高いモチベーションをもって大学生に人前になることの手ごたえを送れば、着実に身に活をつくものです。例えば、この活動を通して達成感や自己を感じた学生は、さらに高き、考え、行動するための機会を提供するものです。

新・キャリアデザインセンター長、学生相談室長に聞く

4月1日付でキャリアデザインセンター長に小林隆ネットワーク情報学部教授(任期2年間)、学生相談室長に藤山雅博商学部教授(任期1年間)が就任した。両教授から抱負をお聞きした。

学生相談室長

開口一番、「学生の皆さんへの学習支援を充実させた」と学生相談室長がまず述べた。

「これまでの学生相談室は、学生の皆さんのキャンパス生活、とくにメンタル面をサポートすることに力が置かれていたように思います。しかし、ユニバーサル化時代の大学教育を考えると『学び』への意欲を高める支援が重要なものとなります。あらゆることに興味・関心を抱

藤山雅博商学部教授



「メンタルケアもこれまで以上に細心の注意を払いながら進めていかなければなりません。特

待ったなし「学習支援」

心のケアとともに

「メンタルケアもこれまで以上に細心の注意を払いながら進めていかなければなりません。特

課題解決型インターシッが始動

地域通貨を広める提案や環境を



▲エコバックづくりを子どもたちに教える前川ゼミ生

キャリアデザインセンターと川崎市が連携し、大学での学びを、地域(企業、商店街、NPO)が抱える問題点の解決に生かす、課題解決型インターシッがスタート

「地域通貨」を伝えた。子どもたちは、布製のバッグに怪獣や花、車など思い思いに絵を描き、満足そうな様子。2部では、綿あめづくりや、ゼミ生が和太鼓演奏を披露するなどして、交流を深めた。

第42回青衿祭

連合県人会主催の第42回青衿祭が6月6日(土)、東京・新宿区日本青年館大ホールで開催される。本学新入生は学生証持参で無料。17時開演。ゲストはScott Murphy。問い合わせは青衿祭ホームページ(<http://seikinsai.chu.jp/>)で。

漫画研究同好会

最近またインフルエンザがはやってるみたいだよ。外国でも大変みたい。

手洗いうがいをお忘れず! 体調管理をしっかりとね!

外出時はマスクをつけよう!

大学で流行らせないようになさね!

この漫画のオチまで吹き飛ばそう!!

キャンパス情報

名誉博士の称号をラオス首相に授与
5月22日神田キャンパスで
ラオス人民民主共和国のアソンン・ブッパーヴァン首相に本学から名誉博士称号を贈ることになり、授与式が以下の通り行われる。式後に同首相の記念スピーチ(日本語通訳あり)が予定されている。

▽日時 5月22日(金) 17時30分
▽場所 神田キャンパス 7号館731号教室
▽参加申し込み先・国際交流事務課

▽日時 6月7日(日) 14時30分
▽場所 五合目バスハイウェイ

▽日時 6月7日(日) 14時30分
▽場所 五合目バスハイウェイ

バスバイクやボウリング 留学生と日本人学生との交流イベントのお知らせ

国際交流センターでは、留学生と日本人学生との親睦をはかる、さまざまなイベントを行っている。6月には以下の2件を実施する。

【交流バスバイク】募集終了
※問い合わせ、申し込みはいずれも国際交流事務課へ。 ☎044(91)1250

New Ground ③ 新しい見方

中村 大祐 (文2・ジャーナリズム研究会)

小田急線20分の旅

新宿駅から小田急線の急行に乗る際には、たいいてい空席にありつけるのだが、時々あえてドア付近に立って外の景色を眺めながら行くのも悪くないと思うことがある。ドアが開まり、電車がゆっくりと動き始めると外の景色が流れていく。初めはビルばかりで空もなかなか灰色の殺風景な景色が続くが、下北沢駅を通り過ぎたあたりから徐々に緑の木々が見え始める。さらに経堂駅を越えると遠くに山が見え、都心から離れた落ち着いた雰囲気のある風景が広がっていく。

特に登戸駅の手前にある多摩川橋梁に差し掛かった時、ふと窓の外に目を向けると、目に入る多摩川の風景は格別だ。両脇を緑の芝が映える土手には



多摩川の土手から見える小田急線の風景

登戸駅から向ヶ丘遊園駅までは1分もかからない。約20分の旅を終えて電車を降り、おそらく専大の学生であろう人々と一緒に改札を抜けると見慣れたロータリーが姿を現す。そこで私は、ようやく1日が始まったと認識する。これから大学へと導くあの急な坂を上り、講義を受けに行くのだという気分になるのだ。